黒川洞穴（くろかわどうけつ）

【所　在　地】日置市吹上町永吉9185番地
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】平成１６年４月２０日

黒川洞穴全景

昭和27～42（1952～67）年にかけて４回調査された縄文時代晩期の黒川式土器の標式遺跡である。

東洞穴の発掘調査では，縄文時代晩期の炉跡（ろあと）１基・土坑14基・土壙墓（どこうぼ）１基が発見され，土壙墓には熟年の女性が埋葬されていた。西洞穴・東洞穴からは縄文時代の前期から晩期にわたる土器や弥生時代中期の土器と，それらに伴った遺物を含む地層が堆積した複合遺跡である。

南海産貝製品（なんかいさんがいせいひん）が出土しており，縄文時代に琉球列島との交流の可能性が考えられる。また，オオカミやツキノワグマ等の動物骨や貝，炭など，当時の食生活や自然環境の考察のための貴重な資料が出土している。